

筑波大学 × 神田外語大学

第4回 国際スポーツボランティア 人財育成プログラム

実施報告書

I. 開催概要

開催日程

2018年9月23日(日)、30日(日) (2日間)

開催目的

ラグビーワールドカップ2019や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会などの国際大会におけるボランティアとして活躍するために教養・知識を身につける。障害のある人へのサポート方法などを実技を通して学ぶ。

開催場所

神田外語学院(東京キャンパス本館7階大講堂)・筑波大学(附属中学高等学校 桐陰会館)

主催(共催)

筑波大学 オリンピック・パラリンピック総合推進室
神田外語大学 スポーツ通訳ボランティア推進室

II. 参加者内訳

申込者/参加者/修了者数

項目	人数
申込者総数	131名
参加決定者数	65名
修了者数	49名

大学別参加者数内訳

大学名	参加者数
神田外語大学	52名
神田外語学院	4名
成蹊大学	9名
参加者総数	65名

男女別参加者数内訳・比率

男性	7名	10.8%
女性	58名	89.2%

筑波大学 × 神田外語大学

第4回 国際スポーツ ボランティア 人財育成プログラム

▶開催日程
9月23日(日)・30日(日) 2日間

▶開催目的
ラグビーワールドカップ2019や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会などの国際大会におけるボランティアとして活躍するために教養・知識を身につける。障害のある人へのサポート方法などを実技を通して学ぶ。

▶開催場所
神田外語学院東京キャンパス 本館7階大講堂
筑波大学附属中学校内 桐陰会館

▶対象
大学生(定員120名)

▶修了証
全日程出席者修了証を発行
※修了証は全日程出席者に対してのみ発行されます。

18091000
教育プログラム
LE300001

Ⅲ. 当日の様子

1 日目 神田外語学院 東京キャンパス



▲集合写真（1 日目終了後）



▲ヨーコセッターランド氏と真田教授による対談



▲朴専任講師によるスポーツから学ぶグローバル人材



▲江上客員教授によるグローバルマナーと異文化コミュニケーション

2 日目 筑波大学附属中学高等学校 桐蔭会館



▲真田教授と平昌ボランティア経験者によるパネルディスカッション



▲集合写真（修了式後）



▲午後からの少人数講座：（左から）ボッチャ、アドベンチャーコミュニケーションプログラム、視覚障害者ガイド

IV. 参加者の受講後レポートより

- 講義を通して、スポーツボランティアとして必要な力はなにか考えるだけでなく、グローバル世界で生きていくために大学生のうちにはしなければならないことを見つけることができた。自分のやりたいことがあっても失敗することを恐れ、なにもできなかった。しかし今回講座を聞き、失敗から学ぶことができるのは学生の特権であるため、様々なことに挑戦することの大切さを学ぶことができたので、授業だけで満足せずに学んだことを実践する課外活動にチャレンジしてみたい。社会にでてからもグループなど集団で仕事をすることは多くある。その中で自分勝手に判断しある人を気遣って行動してもその行動が相手を傷つけている場合がある。グループの1人1人の強みを理解し行動することが相手を尊重することにつながる。(神田外語大学・女性)
- 夏休みに行われた神田外語大でのボランティアセミナーにも参加させていただきましたが、その時の話とあわせて、より一層ボランティアに対する理解が深まりました。やはり、知識をつけて臨むという事の大切さを改めて実感したので、ボランティアになる際は英語は勿論ですが、日本語力、そして大会やスポーツに対する知識もつけておきたいと思います。そして何事にも自分から取り組み成果を上げられる人財になりたいと思います。(神田外語大学・男性)
- 時間や機会、経験は全て自分次第で有意義にできるかそうでなくなってしまうと改めて気がつくことができました。自分から行動を起こし、好きなことだけをするのではなく、広い視野を持てるようになるような経験をしたいです。また、講義の中で心に残った、自分にはないものを探すのではなく、自分にあるものでできることを探すという言葉をお忘れなくしたいと思います。(神田外語大学・女性)
- 講義を通して一番学んだことは団体という意識の大切さである。一人財として周りをよく見て行動し、おもてなしの心を持って相手に接する。それにより日本人代表として海外から来てくださった方々に自信を持って受け答えすることが出来るし、ボランティアを通じて世界中の人と関わることが出来る。来週は自分自身でスポーツを体験することで、より相手の気持ちを考えて自分の強みを見つける良い機会になる。今回の2日間で1である自覚を持ちつつ、強みを見つけたい。(神田外語大学・女性・女性)
- 様々な分野、年代の方々からお話ししていただけたことで、同年代の人がどう動いているのかや先輩方が私たちと同年代の時に何を考え、どう行動していたのかを聞くことができとても興味深かった。自分の中でいろんなことをしていると思っていても、それを超える人が世界には沢山いらっしゃることも改めて分かり、より積極的に行動していこうと思った。(成蹊大学・女性)
- ボランティアの目線だけではなく選手としてどのような思いや状況にあって大会に参加しているのかが全てではありませんが、分かった気がします。障害を持つ方が何を必要としているのか、私たちがどのように行動すればその方は自分らしくいられるのかを深く考えることができました。ボランティア経験された方のお話からは様々な国から来た人たちと共同生活をする大変さを学び、日本人らしい振る舞いや協力する姿勢は忘れずに意識していこうと思いました。日本人同士でも接し方が様々であるので世界中から日本に多くの方がいらした際には想像もしていないようなコミュニケーションの取り方があると思うので出来るだけ多く挨拶の仕方を調べておこうと思います。(神田外語学院・女性)